

## 448人... 未来志向の医療人に

令和5年度入学式



写真左は看護学科と助産別科の入学式会場。同右は式辞を述べる竹屋学長

令和5（2023）年度の入学式が2日（日）、アリーナで行われ、学部生401人、大学院保健科学研究科14人、助産別科21人、認定看護師教育課程認知症看護分野12人の計448人が大学生生活のスタートを切りました。

新型コロナウイルス感染防止のため、昨年引き続き学科ごとに時間差での開催となりました。午前11時30分に始まった看護学科と助産別科の式典では、竹屋元裕学長が入学許可宣言を行った後、「超高齢化社会を迎え、医療の姿も変化しています。皆さんは時代の流れを的確にとらえ、未来志向の医療人を目指してください」と式辞を述べました。

引き続き、新入生を代表して木下紗良さん（看護学科）が「これまでのよき伝統を継承しながら、熊本保健科学大学の学生としての誇りをもって学生生活を送ることを誓います」と宣誓しました。

同9時30分から行われた医学検査学科と認定

看護師教育課程認知症看護分野の式典では黒木結衣さん（医学検査学科）、午後1時30分開始のリハビリテーション学科と大学院保健科学研究科の式典では田中孝太さん（理学療法学専攻）が、それぞれ入学生宣誓をしました。

また、この日は、50周年記念館に大型スクリーンを据え、式典を生中継。多くの新入生の保護者たちが、大画面に映し出される式典の模様を、食い入るように見つめていました。

学部学科の新入生内訳は次の通りです。

医学検査学科125人、看護学科127人、リハビリテーション学科理学療法学専攻76人、同生活機能療法学専攻39人、同言語聴覚学専攻34人。

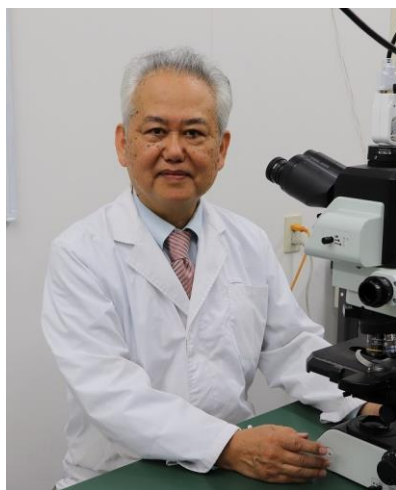
（NL編集部）



入学生宣誓をする、左から黒木結衣さん（医学検査学科）、木下紗良さん（看護学科）、田中孝太さん（リハビリテーション学科理学療法学専攻）

# 南部教授 ( 医学検査 学 科 ) に福見秀雄賞

## 臨床検査・衛生検査領域で指導的役割



臨床検査や衛生検査の領域で長年貢献してきた人をたたえる公益財団法人黒住医学研究振興財団の「第42回福見秀雄賞」に、本学医学検査学科の南部雅美教授＝写真＝が選ばれました。6月に東京で贈呈式が行われます。本学からの同賞受賞は3人目です。

同賞は、臨床検査や衛生検査領域で指導的な役割を果たし、技術の開発・向上や人材育成等で指導的な役割を果たしてきた実務者（技師）に毎年贈られるものです。過去に本学からは第27回（2008年）に廣瀬英治氏、第36回（2017年）に池田勝義氏が受賞しています。

南部教授は昨年、国際細胞学会の細胞検査士特別功労賞も受賞しています。今回の受賞について南部教授は「国際細胞学会での受賞、それから今回の福見秀雄賞と、荣誉な賞の受賞者に選ばれ、支えてくださった皆様への感謝の気持ちでいっぱいです」と喜びを語りました。（入試・広報課）

## 日本言語聴覚士協会九州地区集会

### 平江さん ( 言語聴覚学専攻 実習支援教員 ) 最優秀演題賞

1月下旬に開催された日本言語聴覚士協会の九州地区集会で、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の実習支援教員、平江満充帆さん＝写真＝が、発表41演題の中から最優秀演題賞に選ばれました。

集会は1月28、29の両日、オンラインで開催。平江さんの演題は「超音波検査による嚥下関連筋評価の画像解析の信頼性について」。平江さんは、人がものを食べる時に使う筋肉の量が加齢によって減少し、筋の質が低下する特性に着目。超音波エコーを使って筋量や筋の質を評価することで加齢変化をいち早くとらえ、誤嚥予防に役立てることを目指しています。

超音波エコーを使った今回の研究は、本学出身の平江さんが松原慶吾准教授（言語聴覚学専攻）の指導のもと、学部生、大学院生時代から一貫して取り組んできたものです。大塚裕一専攻長は「（嚥下運動に関わる筋量や筋の質の評価に）エコーを使うというのはユニークな取り組み」と評価。平江さんは「多くの先生方のご指導や協力を得て研究を続けることができました。今後も高齢者を対象とした予防に関する研究を続けていけたらと思います」と、喜びを話していました。

（NL編集部）



## 最高のパフォーマンス目指せ

クラブ活動や学友会などで人をまとめる立場にある学生を対象にしたリーダーズ研修会が3月22日（水）に開催され、1～3年次生100人が参加しました。

株式会社CCIジャパンの元田暁輝氏＝写真＝が「最高のパフォーマンスを発揮するためには」と題して、講演しました。元田氏は高校、大学



## 学生100人 リーダーズ研修

などの教壇に47年間立った経験から、志を立てることの重要性を説きました。また、ゴール（目標）を設定するためには自分の現在地を知ることが必要で、自分のためではなく誰かのためとベクトルを逆にするのが大事だ、とも説明。肯定的な言葉の重要性などにも言及しました。

（入試・広報課）

## 「知識注入型教育」の根強さ指摘

金沢工大  
西村教授

令和4年度の第3回FDセミナーが3月27日（月）1300L講義室であり、金沢工業大学の西村秀雄教授（教育学）＝写真＝が「アクティブ・ラーニングはなぜ日本に定着しないのか」と題して講演しました。FD委員会主催、アカデミックスキル支援センター共催。当日はオンラインを含め約50人が参加しました。

西村教授は、アクティブ・ラーニングやPBL（問題解決型学習）、ルーブリック、ポートフォリオといった大学教育改革用語が「はやっては廃れていく」背景に、知識注入型教育の考え方が根強くあることを指摘。一方で、最近、中等教育に取り入れられ始めた「探求」への期待を口にし、「（教育が）変わるチャンス。教えるのか、学び伸ばすのか、大学の教育力にもかかわってくる」と話しました。

また、医療系大学におけるアクティブ・ラーニングの実施時期について西村教授は、会場からの質問に答える形で「入学直後の可塑性のある時期に集中してやるべきだが、学年が進んだ段階で行うことも可能だ」と話しました。

セミナーには包括連携協定を結ぶ崇城大学と熊本学園大学からの参加もありました。（NL編集部）

「県立高校学びの祭典」が3月4日（土）、益城町のグランメッセ熊本で行われ、本学も会場にブースを設け、大学の紹介や取り組みについて説明しました。

祭典は、小・中学生やその保護者に向け、熊本の県立高校全50校が日頃の取り組みの成果を発表し、各高校の魅力を知らってもらうことを主な目的としています。本学は企画の中核となる熊本サイエンスコンソーシアム（事務局・第二高校）の連携大学として参加。ブース設置のほか、本学教員が高校生の発表へのアドバイスを行いました。

当日はポスター発表220件、ステージ発表12件などが行われ、2,600人超の人で盛況となりました。本学ブースにも高校生はもちろん、中学生やその保護者も多数来訪。当初準備していた約30部の資料は瞬間に無くなり、大学から追加で補充するなどの対応をしました。（入試・広報課）

本学ブースも大盛況  
県立高校学びの祭典

## ◆教職員一堂に会食楽しむ

SAKURA LUNCH in Philiaが3月23日（木）にレストランで開催され、教職員123人が参加し、ランチを楽しみました。レストランに教職員が一堂に集まり、会食を楽しむのは初めてです。木下統晴理事長の挨拶で始まったランチは、竹屋元裕学長による締め挨拶で楽しく終えました。また皆さんとレストランで会食を楽しみたいですね。（入試・広報課）

今週の1枚



高校生のステージ発表やポスター発表があった「県立高校学びの祭典」会場。本学教員も高校生発表にアドバイスしました





## 『実践！言語聴覚士の診療参加型実習ガイドブック』

中川 法一 監修  
大塚 裕一 編著

リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の大塚裕一教授を編集責任者とする『実践！言語聴覚士の診療参加型実習ガイドブック』（医学と看護社）がこのほど、発刊されました。言語聴覚士養成の一環として行われる臨床実習の現場で実習生を指導するセラピストに向けた、いわば統一指導マニュアルです。執筆陣には池崎寛人准教授（言語聴覚学専攻）も名を連ね、構想から4年を費やして完成しました。

大塚教授によると、言語聴覚士の実習のやり方については、統一したマニュアルなどなく、受け入れ施設や指導者によってまちまちという現状にあります。一方で、厚生労働省は各養成校に対して、実習生が医療チームの一員として実際に患者の診察に携わる形の「診療参加型臨床実習」の実施を推奨しています。

こうした状況を受け、大塚教授らは、現場の実習指導者たちと議論を重ね、実習参加の流れを「導入」「見学」「模倣」「実施」「発展」の5ステップに分けてマニュアル化。巻末には、実習現場で使うことができる各種チェックシートや目標設定シートなども収録しました。

日本言語聴覚士協会の臨床実習指導マニュアル作成委員長も務める大塚教授は「ガイドブックを機に、統一した実習システムづくりの必要性を浸透させたい」と話していました。

(B5判176頁、3900円+税)



## 銀杏アラカルト

模倣実習で革細工の小物づくりに挑戦する参加者たち



### ◆キャンパス見学会に157人

春のキャンパス見学会が3月25日（土）に本学で開催され、高校生と保護者計157人が参加しました。

50周年記念館で行われたオリエンテーションでは、竹屋元裕学長が本学の概要を説明。その後、各学科専攻に分かれて模擬講義や模擬実習を実施しました。また、ピア・サポーターによる「先輩と話してみよう」や共通教育による「『基礎セミナー』について知ろう！」のコーナー、進学相談、奨学金・アパート相談のコーナーも設置され、多くの人たちが利用していました。

看護学科に参加した東稜高校2年の女子生徒は「学ぶ環境が整っていて、見学できてよかった」とコメント。リハビリテーション学科言語聴覚学専攻で体験したゲームについても「難しかったが、面白かった」と目を輝かせていました。

(入試・広報課)

◆矢部高校と天草高校倉岳校が本学訪問 矢部高校の生徒40人と天草高校倉岳校の生徒8人が3月15日（水）、本学を見学に訪れました。矢部高校の生徒たちは2号館2207M講義室で本学の概要を聞いた後、同館内の実習室を見学。天草高校倉岳校の生徒たちは3号館3103S講義室で概要説明を受け、学内を見て回りました。見学後、両校の生徒たちは正面玄関付近で記念撮影に興じていました。（入試・広報課）



学内見学後、記念撮影する矢部高校の生徒（写真上）と天草高校倉岳校の生徒（同左）